

## 教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 射水市立塚原小学校・教諭・中神 紘士
- 2 研修期間 令和5年8月29日(火)～令和5年9月6日(水) 9日間
- 3 調査研究課題 主体的、対話的に学び合い、自己肯定感を高めながら、生きる力を育む教育活動の在り方
- 4 研修機関等  
ドイツ：ミュンヘン市教育・スポーツ局  
在ミュンヘン日本国総領事館  
オストヴュルテンベルク商工会議所アーレントレーニングセンター  
Zeiss 本社  
デンマーク：ホイデバンゲンス学校  
ガメルヘレロップ高校  
在デンマーク日本国大使館

### 5 研修の概要

#### (1) ミュンヘン市教育・スポーツ局

ミュンヘン市教育・スポーツ局では、ドイツの教育制度、職業教育訓練制度（デュアルシステム）について講義を受けた。管内には中等教育期の学びの場として、ギムナジウム（9年制）14校、レアルシューレ（6年制）24校、職業学校87校があり、職業学校では130以上の職業業種について学ぶことができる。

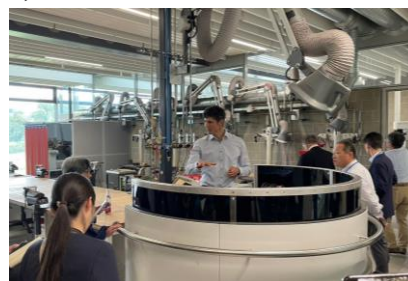
職業教育訓練制度の後期中等教育段階3年間の学びは、商工会議所、職業会議所、学校教員、企業が集まってカリキュラム内容を決めるなど、社会と一体となった教育制度である。訓練生は1週間のうち学校で2日間学び、企業で3日間働いたり、9週ごとに学校と企業を交代したりするなど、様々な教育課程が編成されている。企業では実践的な仕事に取り組み、学校では政治や法律、計算等や研修先で用いられている機械の使い方等について学んでいる。ある職業学校では、ドイツの自動車会社で用いる最新の機械と同じものが整備され、社会で即戦力となるようにより実践的な授業が展開されている。しかし、職業学校で機械を整備することは費用面から難しく、企業が最新の機械を寄付し、訓練生が技能を身に付けられるように、社会と職業学校が連携し、一体となって職業教育訓練制度を支えている。

#### (2) 在ミュンヘン日本国総領事館

前川信隆総領事を表敬訪問し、バイエルン州、バーデン・ヴュルテンベルク州の概要や社会情勢、教育事情全般についてレクチャーを受けた。近年は日本企業との交流が進んでおり、両州合わせると約700社の日系企業が進出してきている。また、ドイツ人の国民性として、意見をぶつけ合うことを回避せず、自己主張をきっちり行うことを学んだ。社会や国民性の違いとも受け取れるが、学校教育ではグループ討議に力を入れるなど、教育の影響もあるのではないかとご教示いただいた。

#### (3) オストヴュルテンベルク商工会議所アーレントレーニングセンター

ドイツ国内にある79の商工会議所の一つで、オストヴュルテンベルク州とハイデンハイム州にある約28,000の会社が所属している。商工会議所では、会社の起業支援や訓練生から最高レベルの技術訓練まで多岐にわたる教育プログラムを実施している。この施設では、金属及び電気分野の職種に特化しており、地域の実情に応じた施設運営となっている。今年、所属企業から79名の訓練生が入学し、3年間の訓練に取り組んでいた。溶接やCNC（プログラムで動く機械）練習場等、実際に操作して理論と実践を学び即戦力となる人材を育成すべく学習環境が整備されていた。



【アーレントレーニングセンター実習教室】

#### (4) Zeiss 本社

1846年ドイツのイェーナで精密機械及び光学機械の工場を設立した。現在およそ50か国100か所に拠点工場を設け、38,770人あまりの従業員が働いている世界的な企業である。

Zeiss 本社では、訪問時、訓練生217名が研修を実施していた。デュアルシステムの企業側の利点として、人間形成や企業で役立つ知識、企業への高い帰属意識等があり、訓練生にとっては、

短期間の学習での実践力、毎月の研修手当、研修終了時の雇用等があるなど、双方にとってウィンウィンの関係であることが分かった。また、Zeiss では製品を販売するだけでなく、社内での研修制度のノウハウを生かし、世界中の企業でも活用できる研修制度（AUKOM）として併せて販売するなど、企業のたくましさを感じた。

#### (5) ホイデバンゲンス学校

7～9年生(13～15歳)の生徒数約700名、教員数約100名の公立学校である。学級定員は最大で28名と法律で決められており、日本と比べると少人数での授業が行われていた。広い意味での人間教育、世の中に出るための様々な経験と準備を教育の目的として、生徒の才能を最大限に発揮できるように日々の教育活動に取り組んでいる。

生徒たちは、いきいきと主体的に学習に取り組んでいた。学校の特徴的な取組として2点紹介する。1点目が保護者との連携である。教員と保護者だけが見られるアウラシステムというネット上の掲示板で情報を共有している。また、街中で保護者と会った際にも、気軽に生徒の悩み相談にのる等、保護者と互いに協力して生徒の教育に当たっている。2点目として、生徒に優しすぎるのではないかという指摘もあるそうだが、プレッシャーをかけすぎずバランスを取った教育活動の実践に努めている。少し前までは宿題もなかったとのことである。一方で、ハイレベル数学教室を週末に開き、学びたい生徒たちが進んで学べる場を設定し、学力や自主性を育てている。

#### (6) ガメルヘレロップ高校

10～12年生(16～18歳)生徒数約1000名、教員数約120名の大規模校である。学力と仲間と多様性を大切にしていた。デンマークでは、各校に予算が割り振られ、校長が予算の使い方を決める。また、優秀な成績の生徒を卒業させることで国から補助金が交付されることには大変驚いた。

授業はレベル別に設定されており、生徒は自分のレベルに応じたクラスを履修する。高校での成績や卒業試験等普段の努力が大学に入る際の判断材料となり、生徒たちからは主体的・意欲的に学ぶ姿が多く見られた。数学の授業では、全体で課題を確認したのち、生徒各々がPCを用いて課題と向き合っていた。教員は授業の中程で解答を確認したのち、解答できている生徒には発展的な課題を提示し、理解不足の生徒には教員が個別指導していた。説明時間を短くし、個々の理解度に応じた学びの時間を保障することで、生徒の主体性が引き出されていた。



【ガメルヘレロップ学校での数学授業風景】

教員の働き方においては、難易度の高い授業を担当する教員は週5時間程度、基礎的な授業を担当する教員は15時間程度とすることで、教材研究の時間を十分に確保していた。勤務時間も年間で上限を設定するなど、教員の働き方への整備が進んでいた。先日行われた、この学校の教員募集は100倍という高倍率で、人気の高い職業であることがわかった。

教員の働き方においては、難易度の高い授業を担当する教員は週5時間程度、基礎的な授業を担当する教員は15時間程度とすることで、教材研究の時間を十分に確保していた。勤務時間も年間で上限を設定するなど、教員の働き方への整備が進んでいた。先日行われた、この学校の教員募集は100倍という高倍率で、人気の高い職業であることがわかった。

#### (7) 在デンマーク日本国大使館

宇山秀樹大使を表敬訪問し、デンマークの国民性、社会情勢や教育全般についてのレクチャーを受けた。デンマーク王国は、日本の九州程の面積に約580万人が生活しており、国民一人あたりのGDPが日本の1.5倍である。再生可能エネルギーが世界トップクラスであることや社会への参画意識が高く、政治が間違っているときには悪口を言うのではなく、選挙を用いて自分たちで変えていこうと考える国民性であると学んだ。また、物事を決めるときには、日本人は遠慮して陰悪になる傾向があるが、デンマーク人は高みにもっていこうとする文化、素地がある。さらに、大半の国民が英語を流暢に話すなど、教育と社会形成のつながりが深いことを教えていただいた。

#### (8) 研修を終えて

海外教育事情視察は、異国の地で、経済同友会の皆様、異校種の先生方と共に過ごしなが、未知の文化や新たな知識に触れ、視野を広げ成長できる貴重な機会であった。今後も様々なことに興味をもって学び続け、教員としての技量を高めるだけでなく、一人の人間として人間力の向上に努めたい。また、各国にはそれぞれのよさや独自の教育制度が見られるが、教育を通して子供の豊かな未来を願う気持ちは世界共通である。子供の自己肯定感を高め、生きる力を付けるにはどうすればよいか、今回の経験を基に自身の授業改善や学校運営の充実に努めていきたい。

終わりに、このような大変貴重な機会をくださった富山県教育委員会、富山経済同友会、長期研修に快く行かせてくださった本校教職員をはじめとする全ての関係者の皆様に、感謝申し上げます。